

まちづくり提言の公表（令和４年11月受付分）

※回答内容は、回答した当時の内容を掲載しています。

件名	ご意見の内容（一部を要約しています。）	回答内容（一部を要約しています。）	担当課
徳山駅の再開発にあたって	周南市は子育てもしやすい環境だと感じますが、結局市外の施設を利用することが多いです。周南市には動物園があってせっかく市外からも家族連れが集まる環境なのに、他に行くところもなく勿体無いと心底思っています。 人気の店舗も市外にあります。徳山駅の再開発にあたり、誘致を期待しています。雑貨店等もあれば、さらに人が賑わうのではないのでしょうか。市民の意見をヒアリングしていただける機会があれば、色々と案も出したいと思っています。	徳山駅前再開発は、地権者で組織された徳山駅前地区市街地再開発組合が事業主体となる民間再開発事業となっており、周南市は事業実施のために必要となる都市計画決定を行い、事業者に補助金を交付することで事業支援を行っているところです。この事業により建設される商業施設「TOKUYAMA DECK（徳山デッキ）」のテナント誘致については、建物完成後に建物所有者となる(株)周南パークタウン開発と商業施設の運営者となる(株)周南パークタウン商業運営の、地元企業の出資により設立された２社により、現在テナント誘致や交渉等を行っておられるところです。頂いた御意見を(株)周南パークタウン商業運営に伝えたところ、「貴重な御意見ありがとうございます。施設計画の参考にさせていただきます。御意見等についてはお気軽にお問合せください。」とのことでした。 令和５年12月のグランドオープンに向け、市民の皆様の御期待に添える施設となるよう、市においても引き続きこの事業へ支援を行ってまいりますので、見守っていただければと思います。	中心市街地活性化推進課
麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター健康ルームについて	麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンターの健康ルームが閉鎖されることですが、以下の理由により健康ルームの存続を要望します。①周南公立大学の設置では、健康・福祉面が重視されていたように感じたが、健康ルーム閉鎖にはそれを感じない。また、市民憲章との矛盾を感じる。②健康ルームを閉鎖すると、代替となる市の施設がない。③健康ルームは、民間のジムやフィットネスのような入会金や事務手数料、入会制限（最低６か月入会しなければならない等）がなく、居住地を問わず利用できる。閉鎖されると金銭面でも厳しくなる。④高齢者の介護予防、健康増進のため施設がなくなる。健康ルームの使用についてはスタッフの方が個人の状況に合わせてプログラムを組んでくださったり、きめ細かい室内環境のチェックをしたくださったりしている。また、自分の体調に合わせてプログラムを考えることで脳を活性化させることができる。⑤広報等での説明がない。民営化されることや健康ルームが閉鎖されることは、広報や市のホームページに記載されていないように思います。経緯や理由を明確にしてほしい。⑥健康ルーム閉鎖後、改修工事に費用をかけるのは税金の無駄遣いである。改修工事後、体育協会事務局が健康ルームの所に移動すると聞いた。事務局の住所変更の必要がないからだろうが、それならカルチャールーム等への移動の方がよいのではないか。おそらく改修工事費も低く抑えられる。また、カルチャールームは毎日使用されているようではないので利用頻度は低い。	現在、周南緑地公園及び公園内の体育施設をPFI方式により施設の整備や管理運営を実施する方向で進めています。 健康ルームは、今後整備する水泳場または陸上競技場に設置する予定であり、４年の間は一時休止させていただくことになります。体育協会には各種競技団体の取りまとめや大会の誘致、施設の利用調整の業務を担っていただくとともに、今後民間事業者等と協力してスポーツの推進に取り組んでいただくため、事務所をスポーツセンター内に置く必要がございます。また、カルチャールームは、総合スポーツセンターが大規模大会を開催できる県内有数の施設であり、会議や大会運営のために必要です。PFI事業者が決定した際には、器具を使用しないトレーニング教室の開催等について検討いたします。なお、鹿野総合体育館内や周南公立大学内に一般の方が利用できる施設もございますのでそちらの利用を御検討ください。	文化スポーツ課
徳山動物園について	動物園を訪問しましたが、豪邸で暮らしている象に比べて、トラ・ライオン舎は長い年月変わらないウサギ小屋のように感じました。トラやライオンたちがとても幸せには見えず胸が痛みました。象は動き回るには十分すぎるほど広いのに、トラやライオンは動き回るには狭すぎる場所です。リニューアル計画があるようですが、一刻も早く猛獣舎の施工をお願いします。	動物のことを大切に思われた御意見ありがとうございます。 徳山動物園は昭和35年に開園しましたが、老朽化の改善や社会情勢の変化、動物のエンリッチメントなどを考慮した人や動物にやさしい施設に生まれ変わる施設づくりを目指して、平成25年度から、開園しながらのリニューアル整備を進めているところです。平成31年度には、ゾウ舎や屋外飼育場の一部を整備し、令和４年８月には、アカアシドックラングール舎の完成をもってアジアの熱帯雨林ゾーンをオープンし、さらなる整備を進めてまいります。御要望を頂きましたトラやライオンといった猛獣舎の整備は、現在、飼育施設の設計を鋭意進めているところで、令和５年度から６年度にかけて北園に現在よりも広く、緑の中で動物たちがゆっくり過ごすことのできる屋外パドックを有する新たな展示場の建設を計画しています。 頂いた貴重な御意見はしっかりと受け止めさせていただき、今後も動物に寄り添った徳山動物園の着実な整備を進めてまいります。少しずつですが生まれ変わる徳山動物園へ、是非またのお越しを職員一同心よりお待ちしております。	動物園